

企業内技術士勉強会の進め方

勉強会に期待すること・やってみたいことがありましたらお教えください（皆さんの質問・意見への世話役のコメント）

▶技術者倫理の書籍の紹介

<<1回目で紹介します

▶企業内技術士の役割が若手の育成以外に見当たらないので、その他の目的を探索することができればと思慮いたします。

<<若手だけではありません。技術者倫理は万人に役立ちます。この基礎がわかれば、必ず職場で役にたつと思います。

▶モラル・道徳・倫理だけでなく、技術者倫理的な切り口（考えてみようとかで考察を深める）も含めて考えてください。その場合、3月上旬に改定された新倫理綱領でやってください。

<<??新倫理綱領についてどれだけ理解できているか、不安が残ります、せっかく3月に解説までしてもらったのに。……。これに沿って考えるというのが、「製造現場」「ものづくり現場」にどれだけ役立つか皆さんに教えてもらいたいですね。（皮肉ではありません。真剣に申し上げます）実務に使うためには、ルールは必要ですが、どう使いこなすかのスキルの問題、マインドの問題ですね。悪いが、改訂前のものも理解できているか怪しい。あの文章は読んでいますし、解説も読みました。今回の勉強会は希望があればこれを題材にしてもいいですが、いいものを作ったのでこれを参考にと言われてどれだけモチベーションが上がるかですね。実務は使ってなんぼです。

あ、それに今回は技術者倫理も勉強会の一つのテーマですが、これだけではないかと思っています。技術士がどう生まれ、成長し、貢献し続けるかという個人のマインドに注目しています。新倫理要領は、技術士が個人で見えるものですよ。そういう個人でできることを取り上げる時間はないような気がします。

▶技術士育成

<<この育成には自分も入っているんですよ。技術者倫理って、当事者意識がなければ空論になり、一番嫌われる屁理屈になりかねませんよね。

▶APRIN eラーニングプログラムなど研究者の倫理に係る教育プログラムがありますが、企業の技術者、管理者としての対応を含めた教育プログラムができることを期待します。

<<このEラーニングは面白かったですが、結構複雑でわかりづらいですよ。主任教授の盗用か、アイデアのヒントがあったのか・・・、研究者の中では重要なのですが、技術者にピンとくるかなあと思いながらやりました。

▶会社内での実施は難しいですか、今起こっている非倫理的事例を防ぐには必要と感じました。

<<会社での実施がなければ、勉強会は失敗と考えます。非倫理的事例を防ぐために正しいことだけをまなべば良いのは、あまりにも人間を性善説的に捉えているような気がします。

す。あなたも私も含め、人間って弱いんです。プレッシャーに弱く、誘惑に弱く、正しいことよりも自分勝手なことに魅力を感じてしまうんです。これを認識しなければ、空論になるような気がします。

▶モノづくりをする企業にとっての技術者倫理の考え方を勉強したい。

<<御意！

▶技術者倫理と現場とのギャップにどの様に望むか、他の方と議論してみたい。

<<ギャップをどう埋めるのかは、特効薬やツールなんてありません。誰もが正しいことをするのが正しいとわかっているのです。でも、それがやれないので、問題が起こるのではないのでしょうか。

▶実践倫理は大変興味深い活動だと思います。職業倫理ほか、社会学的視点からの技術者倫理が関心事です。

<<実践倫理というとなんだかかっこいいですね。小生がこれを考え始めたきっかけは、部下が災害を起こしたところからです。標準化し、対話し、設備化し、演練も、相互チェックも、いろんなことをやって、その朝も「標準を守って仕事をしています」とのやりとりもあったにも関わらず、標準や手順がすべて破られて、パイプの下敷きになりました。幸い死ぬのは免れましたが、のちの「邪魔くさかった」という一言を聞いて、安全や標準に対する考え方が何か変化しました。でもね、お見舞いに行った時に会った、娘さんの小生を睨みつけるあの眼差しは今でも忘れません。「うちのお父さんをこんな目に合わせたのはあんた」と目が語っていました。この時、倫理問題って相手に求めるのではないんだ、自分が落ち度があったため大変な事態を招いたのだと考えだしました。

▶他社の実情に興味があります。いろいろな方のお話を聞いてみたい。

<<いいですね。でも、お話の中で、皆さんにお伝えしますが、他社や事例を何十例、何百例学んでも、自分の現場に役立つのは、自分たちの実態しかないということではないでしょうか。自社の実態、自分の受け持っている工程の実態の中に、災害の芽やコンプラ違反の芽が潜んでいるような気がします。

▶本勉強会とは直接関係はありませんが、技術士取得することによるメリット「独占業務など」が建設関係以外では少ない。若手に技術士を薦める理由が少ないので技術士取得を薦めることに対して二の足を踏んでいる。

<<業務独占がめりっととは、为什么呢。この資格で食っていける。楽してもらう。資格が仕事をもってくるといようなパラダイスをいっているのでしょうか。そういう考え方が誤っているとおもいますが、自分がそう感じるので、技術士を進めないというのは、一見、親切そうです、実は結構えげつない上から目線の選別になるのではないかなあ。メリットをそういう限定した考え方のなかで規定し、技術士をすすめないというのは・・・、これ以上はいいません。

▶まだまだ、技術士の中で「なんで、技術士会はそんなに技術者倫理を強調するの？」という人もいます。

<<いいじゃないですか。自分とおなじ考え方でなければうけいれられないのは[視野狭窄]とよびます。理解されないからやる気が出ないのは人間ですから仕方ないことです。そういうことをおっしゃる人のいいなりになる自分ってちょっと・・・

▶企業内だろうが独立だろうが、なぜ今、技術者倫理かと考えられる勉強会にしていたきたい。

＜＜いいですね。挑戦的ですね。いただきたい！というのは、[勉強会として集めるのだから成果をだせよというエールとして受け取っておきます。第二回目にご説明しますが、言葉の言い回しで、その人の性格や考え方もある程度わかってきます。どんどん、議論をしていきましょう。]

▶技術者倫理+企業で不正を防ぐ具体的な対策、アクションも考えられればと思います。＜＜その前に、不正行為をしてもいいと思っている人っているんでしょうか。聞かれればだれもが正しい行動をとるべきだということおもいます。でも、その行動がいつしなひのはなぜでしょうか。

▶どこもまだやれていない、素晴らしい挑戦的な取り組みと思います。

＜＜すばらしいかどうかはわかりませんが、挑戦的ですね。だって、今回のメンバーは単位が欲しい学生さんではありません。そういう学生さんを指導する立場の人々が集っています。なんとなくですが、皆さんが、技術者倫理やその取組に違和感があるので、30名以上お集まりなんだろうなとおもいます。みなさん、一緒に作り上げていきましょう。

▶今回の企画は、何の背景によるのでしょうか？

＜＜背景？だって、あれだけ大学生に技術者倫理を教えて、綱領を発表して、技術者倫理を持つことが技術者の責務だと言われていても、不祥事が起こっていますよね。それ以前に、現場最前線のものづくりをしている技術者の大半は技術者倫理ということばも考え方もしらず、ものづくりをしているんです。少なくとも世話役の所属していた会社の管理職それも製造現場の管理職をしている人に話すと、「もっと早く知りたかった」「今後の行動に役立ちます」が大半でした。技術者倫理は、大学生のカリキュラム以前に、現場技術者には触れば血の出そうな切実な問題であるような気がしました。それに気づいていない人が小生では95%くらいいました。これが背景です。

▶現在、某私立大学で工学倫理（技術者倫理）の非常勤講師を行っています。必要に応じて話題提供などは可能です。よろしくお願い致します。

＜＜ありがとうございます。大学でどのように教えているかは大切な情報ですね。我々にとって、「火星での生活の注意点講座」を学んでいるような感じなのかもしれないような気がしますが・・・すみません、言いすぎています。

▶多様な観点で技術者倫理を感性を磨けるように、意見交換の場をもうけていただきたいと思います。

＜＜意見交換の場は大切ですね。感性を磨くって素敵な言葉です。

▶いつも金属部会の企画力に感心しています。ありがとうございます

＜＜別に思いついたわけではありませんし、いきなり言い出したわけでもなく、やるべき時期が来たのでやっているだけだと思います。人に言われたり、誰かがやっているのを見て、真似しようとする意思がないからかもしれません。

▶自分も昔は企業内技術士であった。今の若い人たちの悩みや話を聞いてみたい。

＜＜小生も数年前までの現役時代でした。今の人の悩みを聞いても、ひょっとしたら一世代前の人には理解できないかもしれません。現に「現役」の時代に、世代間

皆さんが技術士をどのように使おうとしているか、つまり技術士という太鼓を叩いて見れば大きな音が鳴り出します。叩かなければなりません。勘違いしてはいけませんが、資格で商売ができるという話は、資格商法の中だけです。どんな仕事も、楽しんで簡単に儲かる話など絶対にありません。また、その世界で生きていだけならなんとかなっても、うまく生きるとか、上位10%に入るかという、それは狂ったような努力と才能があり、しかも運が味方しなければ達成できません。今回の企業内技術士の勉強会は、あらわには語りませんが、そういう求道の世界的を皆で考えていきたいと思えます。アニメや漫画の世界ではない我々の技術の世界は、生まれながらの才能でうまくいくはずもなく、ましてや真面目に努力していてもその努力が報われないかも知れません。技術士は、そういう世界で半歩だけあゆみを進めている集団かも知れません。半歩の先行だけ考えてもメリットなどありませんが、このわずかの先行、勾配が数十年続くと、目にみえる形でメリットが見えるかも知れません。

▶技術士、技術士会を前面に出して企業内で活動されている事例を教えてください

<<<皆さんは、「僕はどこそこ大学です」とか「僕は博士号を持っています」とか「僕は会社の中でこんな地位にあります」なんて看板を掲げて仕事をされますか。「技術士」を前面に出す活動って何でしょうか。それは、結果として「あいつはうまくやってくれたな。ところであいつって技術士だって？技術士って何なんだ？」ということに尽きるのではないのでしょうか。

▶他社の企業内技術士の方は、どのように業務（業務の両立、会社への貢献など）されているのか情報共有したいです。併せて、独立技術士の方にも、おそらく以前は企業内技術士の時があったと考えますので、先述と同様のことと、独立してからの変化などお伺いしたいです。

<<<皆さんは、事例を知りたいですが、誰それさんの成功事例、失敗事例って自分の役にたったことってありますか。皆さんの体験で成功事例って役立っていますか？役立つのは、知識ではなく、どれだけそれに意識を集中し、我がごとくに置き換え、考えられたかということではないのでしょうか。ですから、自らがトラブって困った時の体験が一番だと思います。それも、今の出来事が最も役立ちます。何年も前の人の経験は、知らないより知っている方がいいですが、今の課題を死力を尽くして解決しようとする姿勢が役立つのではないのでしょうか。

▶このような勉強会への参加は初めてのため、まずはオブザーバーとして勉強させて頂きたいと思えます。

<<<いいですよ。はっきり言いますが、このような勉強会を企画するのは初めてのなので、オブザーバで参加したいくらいです。でも、言い出したからには、勉強会へ賛同いただける皆さんの述べ時間をとんでもなくいただくことになるので、小生のこれまでの指導技術、スキルを出し切って皆さんと進めていきたいと思えます。

▶企業内、および、顧客に対する技術士であることのメリットの事例

<<<What?

▶後進育成を踏まえた内容

<<<That's right!

▶マーケティング・破壊的イノベーション

<<<申し訳ない。言葉の意味も、やりたいこともわかるが、今回の勉強会ではあまりあまり触れません。しかし、何のためにこれをやりたいかをお聞きすると、共通項も出てくるかもしれませんね。おっしゃる通り、攻めの仕事もあります。しかし、ものづくりの大半は守りです。そして、その守りが安定・安心だから破壊も可能になると思います。

▶自社内技術士のネットワーク構築、技術者倫理の教育

<<<ネットワーク構築の第一歩は、企業内のメンバを知ることです。そのためにはまず、部門の壁を崩す。一番の近道、効果が上がるのが技術者倫理の教育の先生になってしまうことです。

▶技術者倫理は、企業内でも独立してても根本は同じと思うのですが。なぜ企業内とうたうか参考にしてみたい。

<<<今回の勉強会は、二本立てです。まずは、企業内にいる技術士がどのような活動をしていけばいいのか、ライフステージに沿って考えていきます。もう一つの柱は、その企業内技術士が活動していく時のツールとして、悩みQ&Aや、企業内技術士会の作り方と運営方法、さらに周囲に働きかけるための「実務で役立つ技術者倫理」の視点で議論していきます。これは皆さんへのお願いですが、自分中心に考えないでください。独立も企業内も根本は同じだとおっしゃいますが、企業内には皆さんだけでなく、技術士以外の技術者が大多数です。その人たちは、技術者倫理に触れることもなく、仕事をしていて、悩みトラブル、落ち込んでいるのです。そういう人たちが周囲にいるのに、「俺だけは技術者倫理の勉強をしたから大丈夫」だなんて考えないですよね。技術者倫理の説明の中で申し上げますが、「知ってしまったこと」「可能性があるとうかったこと」に手出しをしないのは「技術者倫理を学んでしまった技術士のすること」でしょうか。まずは、その技術者倫理の考え方を実務目線、技術士以外の人にもわかるような説明でお話します。そして、それに賛同していただければ、理解できたところから企業内に広めてもらいたいのです。これが企業内技術士の「責務」と考えれば、見方が変わってきますね。自分中心に考えないでくださいね。だって、自分中心なら、勝手に勉強すればいいのであって、世話役も手間をかけて面倒なことなどしません。「技術者倫理」を知らずに不幸になる技術者を一人でも減らす活動を始めませんか。そのためなら、情報提供、資料提供、ノウハウ提供を惜しみません。

以上、思いつくまま、書き連ねてきましたが、いずれにしても、まだ何も始まっていません。小生の書き連ねは、小生の考え方かといえれば必ずしもそうでもなく、自信ありげな文章もそれほど確信が持てずにいます。ですから、勉強会なのです。

皆さんのこれからの色々なやりとりの中で、このような回答を発するケースもありますが、断定ではなく、議論を発展させるための呼び水と考えください。

では、ZOOM会場でお会いしましょう。